４．小腸カプセル内視鏡の排出確認と自己管理スキルの関係

長崎みなとメディカルセンター放射線科内視鏡室
内視鏡技師　○中村　智子、宮崎　恭子
看護師　　木田　愛実

【はじめに】

Ａ病院では2016年６月よりカプセル内視鏡（以下CE）を導入し、2018年７月までに30名の検査を実施した。CEの最も多い偶発症であるカプセル滞留の報告事例はないが、Ａ病院ではカプセル排出未確認は全体の50％を占め、そのうち６名が確認のため腹部レントゲンを施行した。カプセル排出の確認には自己管理能力が関係するのではと考え、カプセル排出確認群と排出未確認群の患者に対し自己管理スキル尺度の評価と独自に作成した記述による質問調査を行った。

【目的】

小腸カプセル排出確認群と排出未確認群との差違を明らかにし、カプセル回収率増加への指導に繋げる。

【対象・方法】

研究期間は2018年12月から2019年５月。対象は2016年６月から2018年７月までにＡ病院でCEを受けた患者30名。データ収集方法は対象者の特性に関する質問と自己管理スキル尺度の２種類の調査用紙を郵送し回答は郵便にて返送した。分析方法は記述統計、ｔ検定、χ^2検定を使用した。データは個人が特定できないように処理した。

【結果】

１．対象者の特性（表１）

質問調査紙が回収できた対象者は９名（男性４名女性５名）で、平均年齢61.7（±26.3SD）歳であった。（回収率33％）カプセル排出確認ができた患者は６名（入院患者４名、外来患者２名）、排出未確認が３名（外来患者３名）であった。カプセル排出確認群６名のうち５名が女性、カプセル排出未確認群３名すべてが男性であり、性差において有意差が見られた（$p < 0.05$）。また、カプセル排出確認群６名のうち４名が入院患者であり、カプセル排出確認は外来患者に比べ入院患者が高い傾向にあった。

２．カプセル排出確認群と未確認群の自己管理スキルの違い（表２）

表２よりカプセル排出確認群26.5点に対し、カプセル排出未確認群31.6点とカプセル排出未確認群の自己管理スキルが高値であっが、有意差は見られなかった。

対象者の特性　（表1）　n＝9

		排出確認群（n＝6）	排出未確認群（n＝3）	p値
性別	男	1	3	0.02
	女	5	0	
年齢 b）		68（±22.2SD）	49.3（±25.0SD）	0.34
外来		2	3	0.05
入院		4	0	
下剤	あり	3	0	0.13
	なし	3	3	
定期薬	あり	5	3	0.45
	なし	1	0	
内服自己管理	本人	6	2	0.13
	本人以外	0	1	
排便促進行動	あり	3	0	0.13
	なし	3	3	
普段の便の確認	あり	5	2	0.53
	なし	1	0	
カプセル回収	本人	3	0	
	本人以外	3	0	
便の度にカプセル確認	あり	4	3	0.45
	なし	1	0	
カプセル排出への不安	なし	1	1	1
	あり	1	2	

a）χ^2検定（p＜0.05）
b）年齢 t検定(p＜0.05）

自己管理スキルの違い（表2）　n＝9

	排出確認群（n＝6）	排出未確認群（n＝3）	p値
問題解決に取り組むスキル	11.67（±1.59SD）	13.3（±2.05SD）	0.28
否定的思考をコントロールするスキル	4.67（±1.37SD）	6（±1.41SD）	0.27
即座の満足を先延ばしするスキル	5（±1.63SD）	6（±1.41SD）	0.45
合計点（8項目）	21.3(±4.76SD)	25.3(±5.86SD)	0.3
合計点（10項目）	26.5（±3.39SD）	31.6（±8.54SD）	0.28

t検定（p＜0.05）

【考察】

本研究では、カプセル排出確認群と未確認群の違いとして、女性が有意に高かった。行動学的性差において、大木は「女性は物体の位置の記憶や言語記憶が優れている傾向がある。」と述べており、本研究においても女性の方がカプセルを確認することができたのではないかと考える。また、入院患者は外来患者と比べて、カプセル確認が高い結果であった。その背景としては、入院患者４名中３名がポータブルトイレを使用していたことがカプセルの確認に繋がったと考えられる。

自己管理スキルの結果に関して、本研究前は自己管理スキルが高値の患者はカプセル回収率も高いと予測していたが、実際は評価が低い患者の回収率が高いという結果であった。この背景には、対象者数が９名と少なかったこと、また今回使用した尺度はカプセル排出確認に必要なスキルとしては充分に評価できなかった可能性があると考えられる。

本結果においては、男性は女性より自己管理スキルが高かったことから、男性にも確認方法や意識付けの指導を行うことで排出確認に対する認識を深めカプセル回収が上がるのではないかと考えられた。

【結語】

カプセル排出確認群と排出未確認群において

1．カプセルの排出確認は女性が有意に高かった。

2．自己管理スキルに有意差はなかった。

【本研究の限界と今後の課題】

本研究は対象者が９名と母数が少なかったこと、患者の年齢、カプセル排出条件などに相違点があり一律に評価できなかった部分もあったと言える。しかし、今回の結果をもとにカプセル排出時の確認方法や意識付けを行うことでカプセルの回収率増加へ繋げることができると考えられる。

【参考文献・引用文献】

1）松本主之：カプセル内視鏡の進歩，胃と腸，48（4） p.407-409，2013

2）山本博德，他：小腸内視鏡診療ガイドライン，Vol.57（12）,2015

3）白鳥千絵，他：当院におけるカプセル内視鏡のカプセル排出確認システムの構築について，日本消化器内視鏡技師会会報53 p.30-31，2014

4）藤森俊二，他：カプセル内視鏡の現状と展望，胃と腸，48（4） p.418-424，2013

5）高橋浩之，他：年齢段階による自己管理スキルの差に関する検討，日本健康教育学会誌、12 p.80-86，2004

6）濱田綾子，他：栄養素等摂取状況と自己管理スキルの関連：自己効力感を媒介変数として，日本健康科学学会，31p.79-85，2009

7）大木紫：生物学的に見た男女差―脳と行動への影響―，杏林医学会雑誌49（1） p.21-25，2018

【連絡先：〒850-8555　長崎県長崎市新地町6-39　　TEL：095-822-3251】